

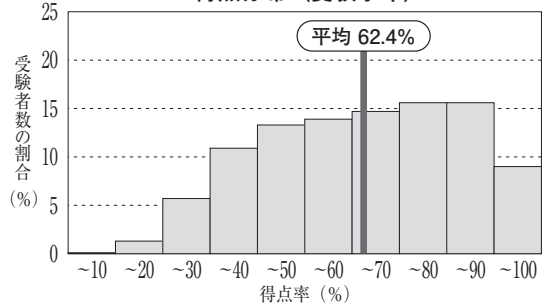
英語 (筆記)

補強ポイントを見定め、総合力を高めよう。

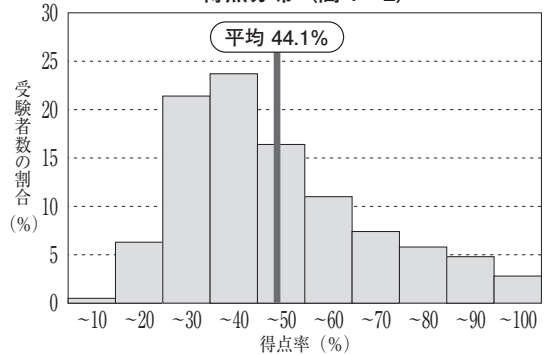
I. 全体講評

全国統一高校生テストは毎年実施されるセンター試験の内容とレベルに準拠している。受験学年（高3生・高卒生）の人たちはすでに熟知している出題形式であろう。一方、初めて受験する高1生や高2生にとっては、語彙レベル、未習の文法事項、問題量に比しての時間的制約といった点で、ハードルの高さを実感した試験であったかもしれない。今回の受験学年の平均点は124.7点で、この時期としてはまずまず良い結果であった。そして、高2生が94.8点、高1生が77.4点という成績である。これらの数値は現段階での学年別のレベル差を反映したものであろう。今回の結果を詳しく示すと以下になる。

得点分布 (受験学年)



得点分布 (高1・2)



II. 大問別分析

■各学年の平均点、大問ごとの得点率

学年	平均点	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問	第6問
高1	77.4点	50.0%	39.5%	43.0%	37.5%	38.4%	29.9%
高2	94.8点	58.4%	46.3%	50.8%	45.8%	49.5%	40.3%
受験学年	124.7点	67.9%	53.8%	65.4%	59.4%	69.7%	63.9%
全員	110.2点	62.9%	49.8%	58.5%	52.8%	60.0%	52.9%

第1問 発音・アクセント

総じて安定していた！

第1問の受験学年の得点率は67.9%で、大問別では第5問に次いで高かった。このうちAの発音問題の平均が68.7%、Bのアクセント問題はおよそ67.4%と、大きな差はなかった。小問毎の正答率を見ても、50%台前半からほぼ80%までの範囲内で安定していた。こうした結果を見ると、およそ標準的な問題に関しては、十分に対応できるだけの力がすでに備わっているようだ。とはいえ、油断は禁物

である。第1問の配点は低いものの、高得点者であってもここで取りこぼしをするケースは多く、それが全体の得点差に響くこともあり得る。苦手としている人はセンター試験までの残りの時間に集中して対策に取り組んでもらいたい。

第2問 文法・語法・整序作文・応答文完成 鍵を握る慣用句と構文の知識！

第2問の受験学年の得点率は53.8%で、大問別では最も低かった。内訳は、Aの文法・語法・語彙

問題が54.4%、Bの整序問題が41.5%、Cの応答文完成問題が65.1%であった。Bがやや不振で、足を引っ張った格好である。第2問全体を通して、正答率が50%を下回った小問は4つあるが、そのうち2つがBであった。Aでは問9の正答率が最も低く、唯一30%台にとどまった。ここではnot...until～という構文上のつながりがポイントをなしていた。Bでは問2と問3の正答率がそれぞれ20%台と30%台に終わった。前者はput～in orderという慣用句、後者はout of the questionという慣用句とit...to doという形式主語構文をテーマにしたものである。全体的に、これらの知識の差が得点差に直結したと言える。

第3問 文脈把握(対話文空所補充・文削除・要約)
本番に向けて、さらにレベルアップを！

第3問の受験学年の得点率は65.4%と、まずまず良好な結果だった。Aの会話問題の平均正答率が59.2%で、不要文削除のBが64.1%、意見の要旨を選ぶCは69.2%で、大きなウィークポイントは見られなかった。小問別に見ても、最も正答率の低かったAの問2が唯一40%台にとどまったほかは、50%台から70%大の範囲で安定していた。第3問では、会話、説明文、意見発表など、様々な種類の文が素材となっているが、どの形式であろうと試されているのは文脈把握力である。文の流れをつかむこと、どこに重点が置かれているかを見極めること、の2点が最も重要である。本番のセンター試験を迎えるまでにはさらなるレベルアップを期待したい。

第4問 説明文と図表・説明文書などの読み取り
本文と設問の照合は厳密に！

第4問の受験学年の得点率は59.4%であった。グラフを含む説明文を素材としたAは63.5%、広告文書を素材としたBは53.8%と、前後半でやや差が見られた。小問別に見ると、Aでは問2の正答率が40%台だったほかは60%台から70%台と安定していたのに対し、Bでは問1が30%に届かなかったのが大きく響いてしまった。これは第4問Bに特徴的な数値(金額)の計算を伴う問題である。今回に関しては、②を選んだ受験者が半数近くいたが、これは12歳の子供の料金を加えていない金額であった。毎年出題されるこのタイプの問題では細

部の情報の読み取りにくれぐれも注意してほしい。同じことは第4問Aのグラフの問題についても言える。間違えた人は過去問を含め、ぜひ類似問題に当たっておこう。

第5問 物語文の読解

説明文とは違う意識で取り組もう！

第5問の受験学年の得点率は69.7%で、すべての大問の中で最も良かった。小問別に見ても、正答率にして50%台後半から70%台後半とバランスよく得点できていたので、特筆して注意しておくべき箇所はない。ただ、一般論として、ここではストーリー性のある素材文を用いているため、主観的な観察や意見が述べられることが多いので、説明文に比べ、筆者の言いたいことが多少掴みづらいケースもあり得る。この種の文章では、想像力を働かせて状況を把握する必要もあることを念頭に置いてほしい。また、設問に関しては本文中の間接的な手がかりから解答すべき場合があることも指摘しておきたい。センター試験の大問の中でも、第5問は概して良好な結果を示す傾向がある。本番のセンター試験でも、この調子で安定した成績を期待したい。

第6問 説明的文章の読解

さらに高得点を目指してがんばろう！

第6問の受験学年の得点率は63.9%で、比較的よくできていた。小問別の正答率も、60%から70%程度で、非常にバランスよく得点できていた点は高く評価できるだろう。段落ごとの見出しを問うBでも64%ほどの正答率を示したように、最後まで安定した力を見せてくれたのは心強い。第6問では、各段落で述べられていることの中心が何かを意識しながら文章を読む必要がある。それほど難解な文章ではなく、段落ごとの内容は割合にはっきりしているの、十分な時間があれば正解を得るのは難しくない。最後の方は若干無回答率が高くなったが、全問を解くだけのスピードを身につけるために、今後語彙力を強化するとともに、第6問に至るまでの解答効率を高めるように努力しよう。そうすれば、この大問の得点率も自然と上がっていくものと期待される。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆受験生及び既に受験勉強に励んでいる人へ

全国統一高校生テストは、センター試験の形式や難度を踏襲して作られている。受験生の諸君にとってはこれまでに養ってきた英語の実力を測るのに絶好の機会となったことだろう。来年度のセンター試験に向けて、各自が最高の準備をするために、これからの2か月あまりをできるだけ有効に使ってほしい。センター試験に限らず、英語の試験に対処する能力は、どれだけ文法や語彙などのツール(暗記項目)を身につけ、多読・多解の経験を積むかにかかっている。これらは互いにリンクしているが、中でも語彙力と多読が相互補完関係にあることは明らかであろう。したがって、今後の限られた時間の中でも、過去のセンター試験の問題はもちろん、レベル的にも内容的にも近い他の入試問題にあたるなどして、できるだけ多くの英文に触れるべきである。また、文法問題や発音・アクセントの分野は、短期間でも集中的に取り組めば、かなりの成果を得ることができる。熟語についても同様である。各自が自分に足りないと思われる分野を優先して補強に努めてほしい。

◆これから本格的な受験勉強に取り組む人へ

センター試験は高校の学習内容がきちんと身につけているかどうかを、総合的に測ろうとするものである。全体としては標準レベルであるが、80分という時間でこれだけの問題量をこなすには、出題形式への慣れや解答速度も含めた対応能力が求められる。そして、この能力を養うには早い時期からの準備が望ましい。まず、音声分野、つまり発音・アクセントである。発音・アクセントは問題を解くだけに留まらず、将来、英語でコミュニケーションを行う際に非常に重要になる。英語の勉強には文字だけでなく、CDや音声データを活用して、日頃から音声学習を取り入れるようにしよう。英文を読むときもできるだけ音声教材を利用して、正しい発音に続いて声を出す音読を習慣化するとよい。そして、英語力の基礎をなすのは文法と語彙の力であるが、これらは発音・アクセント問題以外のすべてについて回る。なるべく早いうちに文法の知識を蓄え、多読を通じて語彙レベルを高めよう。この両輪が備わっていれば、解答速度も当然上がり、余裕を持って全

問題に対処することができる筈である。